

# 待降節第1主日A

マタイ24・36-44

## 「目を覚まして待つ」

皆さん、カトリック教会の暦では今日の日曜日から待降節に入ります。待降節とは「キリストの降誕を待ち望む期間」という意味です。救い主イエスの誕生を心待ちにしながら準備をする4週間になります。この時期、教会では4本のローソクを立て、日曜日が来るたびに1本ずつ火をともしていきます。4本のローソクすべてに火がともるとクリスマスになるというわけです。しかも、私たちは、この時期がもう一度、救い主をお迎えする準備の時期であることに思いを致したいのです。

今日は待降節第一主日です。アドヴェントの第1日曜日でもあります。アドヴェントという言葉はラテン語で「到来、到着」という意味です。今日の福音書でイエス様は「人の子の到来がいつか分からないから、目を覚ましていなさい」と言って私たちに準備しておくように注意してくださいました。

皆さん、私たちの生活の中では、誰かが来るのを待つとき、あるいは特別な行事があるとき、さまざまな準備をするのではないのでしょうか。例えば、特別な行事としては、学校への入学、就職、結婚、引っ越し、新しい家を建てる、退職など、さまざまなものがあります。そのために様々な準備が必要です。このような行事をするために、私たちは多くの時間、多くのお金とエネルギーを費やしていますね。準備は大変ですが、私たちは、それらの行事をととても楽しみにしているのではないのでしょうか。

しかし、聖書が語る「神の到来を待つ」というとき、あらかじめ、いつ、神が到来されるか私たちは分かりませんから、どのように待てばよいのでしょうか。私たちにはどのような準備ができるのでしょうか。

私たちが神の到来を待つときの準備をどのように行うかについて、私は一つの物語を紹介したいと思います。

ある町にルカという信心家がありました。

ある夜、ルカは神様が自分に語りかけている夢を見ました。夢の中で、神様は彼にこう話しかけました。



「ルカさん、私はあなたに個人的に会いたいです。」ルカはとても興奮して、神様に尋ねました。「主よ、その時はいつになるのでしょうか？」神は答えました。

「明日の夕方6時です」。そこでルカは嬉しくておいしい食べ物を用意し、家を掃除し、新しい服を買いました。夕方の6時になると、すべての準備は整いました。彼は神様を待っていたのですが、神様は現れませんでした。

8時頃、ある物乞が戸を叩いて何か食べるものが欲しいと頼みました。ルカはその物乞に、自分はとても重要な人（VIP）を待っているのだから今日はあなたをもてなすことはできないと言いました。そこで、物乞は悲しみと空腹に耐えながら、その場を去っていきました。

9時になると、また別の人が戸を叩いて、息子が病気になったから助けをくれと頼みました。しかし、ルカはこう言いました。「私は今あなたに構っていません。とても大切な人が来るので、あなたを助けているひまはないんです」。その人は助けを得られず、がっかりして帰っていきました。

10時になっても神様は来ないので、ルカは眠りにつきました。神様は夢の中で彼にもう一回語りかけました。ルカは怒って、神様に言いました。「主よ、なぜあなたは現れなかったのですか、私はあなたを待っていたのです。私はあなたのためにすべてを準備しました。」

神は答えました。「私はあなたのところに行きましたよ。私は約束を果たしたのです。あなたの家の戸をたたいて食べ物を求めた物乞のことを覚えていますか？それは私でした。あなたに助けを求めていた人を覚えていますか？それも私です。しかし、あなたは私を追い払いました。」

皆さん、私たちは今、何を待ち望んでいるのでしょうか？何を準備して神がこられることを待っているのでしょうか？何を探しているのでしょうか？

もし私たちがイエスの誕生を待っているなら、イエスはすでに2千年前に誕生していますね。彼は私たちの救い主であり、兄弟でもあるのです。



もし聖霊が私たちの間に宿るのを待っているなら、聖霊はすでに私たちの中におられます。でも、時々私たちは自分の人生における聖霊の存在と役割に気づかないことがあります。

もし私たちが信仰を待ち望んでいるなら、神は私たちにすでに信仰を与えてくださっています。私たちは何を待っているのでしょうか？

毎週日曜日、ミサに参加したり、祈りをしたり、ロザリオを唱えています。私たちはキリストのおん体を受け、キリストは私たちの中に生きておられるのです。しかし、ミサが終わると、私たちは以前の習慣に戻ります。

神様が私たちに求めているのは、私たちの生き方の変化、生活の新しい方向性、そして新たな人生ではないでしょうか。

私たちが他の人々、特に弱い人々の中にキリストの姿を見ることができるような生活です。キリストは「最も小さい者（弱い者）の一人にしたのは、わたしにしてくれたこと」（マタイ25.35-36）と言われました。しかも、重要なことはこのような正しい人は自分のしたことには気づかないのです。（マタイ25.37-39）

これは真実です。私たちが他の人々の中にイエスの姿を見ない限り、私たちは神の到来を待ち続け、暗闇の中にとどまることになります。私たちが人生の中でイエスの姿を他の人々の中に見ない限り、神の到来に気づくことはないでしょう。

今日、私たちも、神様が再び来られることに目を覚まして待っていることができるように祈りましょう。また、神が私たちに待つという恵みを与えてくださるよう、祈り求めましょう。

*Lazun naw san Vincent(pime)*

*L. S. P.*